記号学小辞典

Taschenwörterbuch der Semiotik

脇阪豊・川島淳夫・高橋由美子 編著
Y.WAKISAKA・A.KAWASHIMA・Y.TAKAHASHI

同学社小辞典シリーズ

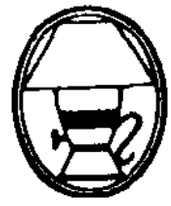
der
Semiotik

記号学小辞典

脇阪　豊
川島淳夫　編著
高橋由美子

同学社

脇　阪　　豊(わきさか　ゆかた)
天理大学国際文化学部教授
川　島　淳　夫(かわしま　あつお)
獨協大学外国語学部教授
高 橋 由 美 子(たかはし　ゆみこ)
上智大学外国語学部助教授



検印廃止

© 記号学小辞典
Taschenwörterbuch der Semiotik

1992 年 11 月 30 日　初 版 発 行
定価 2,884 円
(本体 2,800 円・税 84 円)

編 著 者　脇　阪　豊
川　島　淳　夫
高　橋　由　美　子

発 行 者　近　藤　久　壽　治
印 刷 所　研究社印刷株式会社

発 行 所　株式会社　**同　学　社**
〒112　東 京 都 文 京 区 水 道 1-10-7
電話(3816)7011(代)・振替東京 5-166920

ISBN　4-8102-0056-6
Printed in Japan
[井 上 製 本]

はしがき

日本語で編まれた記号学の辞典がほしい，と私たちが思いついてから，そろそろ10年近い．その当時私たちが手にし得た同種の辞典には，M. ベンゼ / E. ヴァルター共著の『記号学辞典』(1973) と，A. J. グレマス / J. クルテ共著の『記号学』(1979) があるくらいだった．こうしたなかで，私たちをこの計画に一歩近づけてくれたのは，W. ネートの『記号学ハンドブック』(1985) の刊行予告であった．

手探りながら辞典としての構想を練り始めた頃，ネート氏の書物が届いた．私たちの決心はついた．その後，全面的な協力を約束して下さった同氏に励まされて，私たちの仕事も次第にはかどることになった．何度かの直接の話し合いや，質問への回答，さらには校正刷りの点検まで，この辞典の完成はネート氏の助言と協力なしにはありえなかった．

最近の記号学研究は，個別問題領域への着実な探索と，多様な分野の統合的な交流が進み，多くの新しい知見が，この辞典の記述の間にも日毎に加えられてきた．しかし，記号学の研究を単に概念体系の構築としてみるだけではなく，記号間関係あるいは記号とその使用者の間のダイナミズムにおいて捉えてみたいという，私たちの考えは，今後も大方の賛同が得られると信じている．そしてこの記号のダイナミズムは，言うまでもなくコミュニケーションの遂行によって保障されるはずである．このコミュニケーションは，ただ人間世界だけにみられるものではなく，生物界すべてにおいて行われている．いや，私たち自身と私たちの創りだしたものたちとの間にもそれは進行している．この広大な拡がりを捉えようとするのが，現代記号学の課題である．

このささやかな『記号学小辞典』が，こうした可能な世界の諸問題に，果たしてどこまで近づき得ているのか．それは本書を活用される方々のご判断におまかせしたいし，また忌憚のないご批判をお願いしたい．

日本語での見出し語には，ドイツ語と英語の対応語をつけ，かつ

研究史的に必要な場合は，フランス語の表記も追加した．また，ドイツ語と英語での検索のために，巻末に独・日，英・日の用語対照表を索引として載せた．限られたスペースに出来るかぎりの説明をとり入れるため，各項目間の関連性を矢印(→)で示す方法をとったので，利用される方々の活用をお願いしたい．また，記号学の展開に重要な役割を果たした研究者27名を本文中でとり上げた．

その当初，この企画を快諾され，長期間にわたる仕事の間，根気よく見守って下さった同学社社主の近藤久壽治氏には，そのご配慮に心からお礼を申し上げなければならない．対照表の制作から校正の仕事，文献リストの整理に至るまで，ひとつひとつの記述の問題点に細部にわたって注意を払って頂いた同社の蔀純さんのご苦労には，ただ頭を下げるほかはない．最後に，ご多忙中にもかかわらず，見事に本書の表紙とカバーのデザインをして下さった，記号学会会員で武蔵野美術大学教授の向井周太郎氏にも深い感謝の意を表させて頂きたい．

1992年9月

編著者一同

凡　例

(1) 見出し語の配列は，アイウエオ順とし，長音の場合は当該の母音のアイウエオ順に従った．
(2) 矢印(→)：その項目を参照せよ．
(3) 各国語の略語は次の通り．ギ(ギリシア語)，ラ(ラテン語)
(4) 関連する文献は，原著者名の次に使用した版の刊行年を記し，初版年は巻末の文献リストでカッコに入れて示した．
(5) 記号学の下位分野には，「...記号論」を用いた．(例：文化記号論)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目　次

本　文 …… 1

引　用　文　献 …… 209

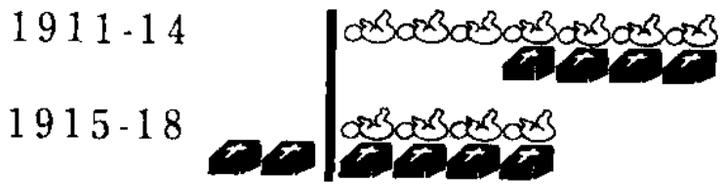
対照表(独—日) …… 235

対照表(英—日) …… 252

あ

挨拶の信号　Grußsignal / signal of greeting　身体的な相互行為を社会記号論の立場からみると，握手，抱擁，接吻などは挨拶の信号とみなされる．注意の喚起や祝儀，強い習慣性をもつ儀式形式にも同様の → 機能が含まれている．

アイソタイプ　Isotype / Isotype　International system of typographic picture education の略称．オーストリアの哲学者ノイラート(1882–1945)が1936年に考案した絵文字言語．いろいろな形や色に一定の法則性を与えることによって，だれにでも理解できる記号を作りあげ，人口の比較，→ 交通標識，→ 教授法などに応用されている．多岐に分化した言語に共通の基盤を提供する試みのひとつ．



ドイツの出生数と死亡数の対比

曖昧記号　vages Zeichen / vague sign　→ 記号類型学

曖昧性　Ambiguität / ambiguity　ひとつの → 記号負荷体にいくつもの意味があり得ること．一般に語彙や統辞のレベルにおいて認められるが，その多くは → コンテクストにおいて，一義化されることが多い．しかし，文学作品などでは記号の用法そのものに二つ以上の解釈可能性を与え，とくに → 言語記号の曖昧性を意図的に作り出そうとする場合がある(→ 詩性)．

アナグラム　Anagramm / anagram　→ 語や句の → 文字の入れ替えによって新たな語や句を作り出すこと．例えば，bergen (覆う)–gerben (鞣す)．→ ソシュールは古くから伝わる語彙遊びの一種としてのアナグラムを，慣習的な → 言語コードの制約を離れて，自由な → 記号使用の意識を顕在化させているものと見なした．アナグラムへの関心は，後に諸種の → テクスト考察へのひとつの契機を引き出すことになる．

アナログ・コードとデジタル・コード　analoger Kode vs. digitaler Kode / analogical code vs. digital code　→ コミュニケーション

理論において，→コードは基本的にアナログ・コードとデジタル・コードに2分される．アナログ・コードは，絵，→モデル，非言語的な表現など，時間的，空間的に連続した→信号を指し，デジタル・コードは，→文字や数字のような非連続体としての→記号体系を指す．コンピューター工学にとって重要な概念．

アリストテレス (前384-322) Aristoteles / Aristotle ギリシアの小都市スタゲイロスに生まれ，17歳のときアテナイに出てプラトンに学び，弟子ならびに協力者として活躍．師の死後小アジアのアソスに移り，前335年アテナイに戻って，高度な研究組織を誇るリュケイオンに学園を開く．いわゆるアリストテレス学派の基礎を築いた．

記号についての考察は，とりわけ論理学(『オルガノン』)中の「諸カテゴリー」と「文の理論」にみられる．諸カテゴリーは，語を区別し，語によって指示されるものを分類するが，それらの概念は「いずれもそれ自体としては肯定も否定も含まず，肯定あるいは否定は，それらの結合を通じてはじめて成立する」．記号は「音声」と「→表象」および「→事物」から成立する何ものか，としての3者関係(→3項関係)において捉えられている．つまり「いかなる名詞も本来から名詞であるのではなく，まず記号となる」．アリストテレスはさらに，その『詩学』においてプラトンからの「→模倣」(→ミメシス)と「創作」(ポイエシス)の概念をよりダイナミックに展開させ，具体的芸術行為の原理としたが，後者の理念は→ビューラーによってその発話行動の原理へと継承されている．

アルケーム Archem / archeme →コーレーム

暗号法 Kryptographie / cryptography 通信の秘密を守るため，当事者間だけで分かるように決めた特殊な→記号体系で→速記術と同様，→普遍言語のひとつに数えられている．

暗号文は，一般に→代置の手続きで解読されるが，方法として，アルファベット体系と，→コード体系の2種が考えられる．アルファベット体系は，モールス信号や→点字のように，暗号文の記号体系が原文のアルファベット体系によって，1対1の関係に置き換えられるもの．それに対してコード体系の暗号文は，→コード語で構成されているため，コードを→語彙目録として

参照することによって初めて解読が可能となる.

暗喩 Metapher / metaphor 原義(ギ metaphorá)は，あるものの属性を他のものに移して叙述すること．一般にある事物をより効果的に表現するために，通例それに対して使われる語句とは違った語句を，類比を明示する語(例: wie, like, comme)を用いずに表現する手法が暗喩で，二つの語彙項目の間の→選択制限が破られた逸脱現象のひとつである(→意味の透明性).

暗喩研究の代表的な方法論として，次のような理論的枠組みが考えられる．1) 代置説: 暗喩を→類推の原理に基づく置き換え操作とする立場．アリストテレス(『詩学』第21/22章)に始まる，2) →相互作用説: 深層的な主旨と，それを表示する媒体の相互作用を暗喩とする立場(Richards 1936, Black 1962, 1979), 3) 発話行為説: 暗喩は文字通りの意味が偽，→逸脱の意味が真という特殊な伝達行為のひとつとして捉えられ，両者の意味を解明することが暗喩理論の課題とされる(Searle 1979).

記号学の分野では，→パースに接続したヘンルの研究以来，暗喩の→類像性が議論の中心となっている(Henle 1958). ヘンルは，暗喩を2次的な意味のレベルで，二つの類似した対象が知覚される間接的な類像と定義した．ネートはこれを補って，暗喩の類像性に，次の五つのテーゼをたてている．1) 暗喩の類像性は経験的な事実に基づく，2) 暗喩の類像性は文化的な→コード体系に基づく類似性を含意する，3) 暗喩の類像性は創造的な過程において生ずる，4) どのような→言語記号も他の言語記号の暗喩になり得る，5) 暗喩の類像性は視覚ばかりではなく，種々の感覚器官を→経路として知覚されうる(Nöth 1985b).

修辞学上の手法としての暗喩理論に対し，近年の暗喩研究は，これをむしろ普遍的現象とみることによって(Bühler 1978), 暗喩を文化研究一般の基本概念とする立場が強くなってきている(Wakisaka 1987).

暗喩的記号 metaphorisches Zeichen / metaphorical sign 詩的言述に多用される暗喩的記号は，本来それが表示する対象とは異なった対象を指示するが，本来の記号がもつ→被指示体そのものと同じ特徴を示す．例えば，ある型の自動車を「かぶと虫」という場合である(→暗喩).

い

イーミック emisch / emic → エティックとイーミック

イェルムスレウ，ルイ (1899-1965) Hjelmslev, Louis デンマークの言語学者．→ 言理学の創設者であり，『一般文法の原理』(1928)，『言語理論序説』(1943，英 1961) で言理学の基礎づけを行った．言理学は → テクスト，すなわち有限個の言語的要素，機能体，およびそれらの言語体系内での結合規則を記述するにあたって，代数的定式を用いようとする演繹的言語理論である．イェルムスレウは，言語に内容と表現を区別し，それぞれに内容形式と表現形式を認め，それらの関係として限定関係，相互依存関係，位置関係を区別した(→ 表現と内容)．イェルムスレウの言理学は，1935 年の『音素論の原理』にその核心がみられるが，言理学の名称は，後継者ウルダルの提案によるものといわれる (Uldall 1944)．イェルムスレウの理論は近代構造言語学，記号学の形成に大きく寄与している．

異化 Verfremdung / estrangement 日常言語での慣用を意図的に破り，テクストの伝達機能を退行させること．その結果 → 自動化されていた言語の働きに再び注意が喚起され，テクストの → 詩的機能が強化される．→ ロシア・フォルマリズムの主要概念 (Šklovskij 1969, Tynjanov 1969) のひとつ．

位階体系 Gradationssystem / system of grading → パースによれば → 記号体系には，その 3 分法の原理に基づき，常に → 3 次性へと向かう記号過程展開の傾向がある．この自然の数的順序に応じて → 記号性の等級づけがもたらされ，記号は個々の記号からその複合的記号へと段階的に → 上位化の過程，すなわち統合的全体性の形成を展開する．このような階層的配列を記号体系の基礎に考え → ベンゼはこれを位階体系と呼び，美的状態も数値的に記述できると考えた (Bense 1969; → 記号学の代数化)．

意義 Sinn / sense フレーゲは「明けの明星」と「宵の明星」の例を挙げ，この二つの記号の意義は異なるが，現実の対象は同一物であることを例に，意義と → 意味の違いを明らかにした．その際フレーゲにあっては，「意味」とは現実の対象であり，意義

とは→記号内容または→解釈項に対応するものである (Frege 1975).

コセリウの場合には，テクストの語彙的意味の総体としての意味に対し，テクスト全体が記号として受け手に対してもつ意義が区別される(→送り手と受け手).

意義産出 Sinnproduktion / productivity of sense クリステヴァは→テクストを「言語を超えた機構」として捉え，テクストは生産過程であるとする．テクストの意義産出過程の研究のために，フロイトの心理分析に依拠しつつ，→意義産出分析という記号論的方法を提唱した (Kristeva 1969).

意義産出分析 Semanalyse / semanalysis / sémanalyse クリステヴァによる→意義産出のプロセスの分析．→談話の次元を越えて，記号の実践的行為として→テクストを捉えようとするクリステヴァは，言語から出発しながら，もはや言語レベルでは把捉出来ない記号活動の機構を明らかにしようとする．このとき，直接情報に関与するコミュニケーションでの→パロールは，テクストの生産性を脱構造的(→ディコンストラクション)・構成的な性格を獲得し，テクストがテクスト加工の実践の次元に移行する．この過程をクリステヴァは，→テクスト間相互関連性の観点からテクスト意義産出の過程として分析する．ここでは，→ゲノ・テクストから→フェノ・テクストへの変換の過程における，隠された意義の次元の解明が問われる．

意義素 Semem / sememe / sémème →グレマスは→意義素性核と→意義素性類との結合したものを意義素と呼び，意義素は音素列としての→形態素と合して，→語彙素を形成するとした (Greimas 1966).

意義素性 Sem / seme / sème 構造的意味論において，→語の意味構造は→意味の軸を構成する2項対立の関係によって成り立っている (Greimas 1966).

例えば，「黒い」と「白い」，「熱い」と「冷たい」は反対の関係であり，これに対し，「白い」と「白くない」のような語は矛盾の関係にある．このような意味を構成する特性を意義素性という．また，「湯」は「液体」，「熱い」，「酸素と水素の化合物」などの意義素性から成るとし，このように語を意義素性に分割する

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

ことを → 意義素性分析という(→ 意味の四角形).

意義素性核 Semkern / semic nucleus / sème nucléaire → グレマスは → 語彙素の分析において, → コンテクストに依存しない不変項としての意義素性核と, コンテクストに依存する変項としての → 意義素性類を区別した. 意義素性核と意義素性類の結合から語彙素の意味が成立し, これを → 意義素と呼んだ (Greimas 1966). すなわち, 意義素は意義素性核と意義素性類の束である.

接続詞や関係副詞のように, 意義素性類だけからなる意義素性類結合をグレマスは → メタ意義素と呼んでいる. → テクストは種々の意義素性結合と意義素性関係からなる.

意義素性範疇 Semkategorie / semic category / catégorie sémique → 意義素性の上位概念で, 両者は階層的関係にある. 例えば,「少年」は,「男性」・「年少者」という意義素性に分割される. その際,「男性」は「女性」と共に「性」という上位概念, つまり意義素性範疇に属している.

意義素性類 Klassem / classeme / classème → グレマスの用語で, → コンテクストによって変化する可変項の → 意義素性 (Greimas 1966). これに対して, コンテクストから独立した恒常的な最小の意味特徴は → 意義素性核と呼ばれる. 通常, 意義素性核が意義素性類と結合することによって → 語彙素の意味が生ずるが, 接続詞や関係副詞は意義素性核をもたず, 意義素性類によってのみ形成される語彙素である.

意義論 Semasiologie / semasiology → 名称論が → 意味, → 概念から出発して, それに対応する言語記号を研究するのに対し, 意義論は言語記号, 例えば, 語形を出発点にして概念に至り, さまざまな時代や地域において, それががどのように現れているかを研究する. 例えば,「キ」には「木」・「樹木」・「材木」の意味があることを記述する.

移行の場 Übergangsfeld / transition field テンブロックは, 動物の発する音響的信号の意味機能を実用論的観点から記述している. それによると動物の音形式には, 1) → 近距離の場の音(警戒音, 接触関係の防御音, 遊戯音, 快楽音など), 2) 移行の場の音(生活行動範囲を示す音, 距離を保つ防御音), 3) 遠距離の場の音(叫び声, 警告音など)があるとされる (Tembrock 1971).

異単位 Allo-Einheit / allo-unit 抽象的レベルでの → 音素 /x/ が，特定の単語 Buch と ich のなかでは，それぞれ [x] と [ç] として具体化されるように，例えば，ある → 交通標識が特定の街路の条件下で用いられるとき，その現実の在り方を指す概念(→ エティックとイーミック).

位置価 Stellenwert / positional value 数学では，数のなかでそれが占める位置に依存する数値．記号学では一定の関連体系の中である事項のもつ意味．言語についてみれば，ある動詞の周辺には充足されるべき一定の → 空位があるが，その空位を占める → 範疇(例：名詞)の位置価は同じであるといえる．位置価の等しい語群は主語，目的語などの類を形成する.

一義的記号 eindeutiges Zeichen / unambiguous sign → 記号類型学

1次コード Primärkode / primary code それ以上分節されない基本的な意味を担う → コードのこと．例えば，数字の1次コードによると，基数詞 は「量」を，序数詞 は「順序」を意味する．しかし，異った文化的･社会的背景のもとでは，4は不吉，7は幸運など，さまざまな副次的意味合いが付与される．このように，弁別的に機能して(→ 弁別性)，種々の変異を形成するのが → 下位コードである.

1次性 Erstheit / firstness → パースはアリストテレスとカントの範疇論を検討し，記号の普遍範疇として，1次，2次，3次の → 範疇を立てた．1次性では → 性質記号，→ 類像，→ 名辞の3者が区別される．1次性とは「すべての外的な力やあらゆる理性に関係なく」，また「他の何ものとも関係なくそれ自体であるような何ものか」としての未分化な在り方をいう(→ 記号クラス).

1次的な場面 Primärsituation / primary situation → 非言語的コミュニケーションにおいて，送り手自身が当該の非言語情報(→ 身振り，→ 表情)の → メディアである場合をいう．これに対して，絵画や → 写真などは，2次的な場面における非言語伝達である.

位置表示条件 Lokatum / locatum → モリスの術語．→ 同定記号によって示される被表示体の空間的･時間的条件を指す．同定記号の → 記号内容にあたる.

逸脱 Abweichung / deviation 自然言語の使用に際して，統語上または意味上の規則が損なわれて用いられること．詩的表現では，規則からの逸脱を意図的に行い，その → テクストの詩的効果を高めるために応用することがある．例えば，詩的な → 暗喩にはこの原理が働いている．

一方的コミュニケーション unilaterale Kommunikation / unilateral communication マイヤー=エプラーの術語．生物体が物理的，化学的，生物学的に検出可能なあらゆる外界の → 信号を受け取り，かつ処理する操作を指す (Meyer-Eppler 1969)．これに対して，→ コードに基づく人間あるいは動物間の情報交換は，→ 相互的コミュニケーションとよばれている．

一方的コミュニケーションには，二つの段階がある．情報源が無生物の場合，観察者による → 情報処理は図 I のような観察連鎖の → モデルで記述される．

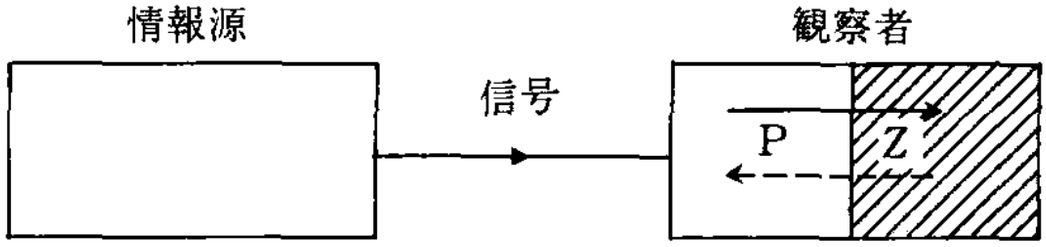


図 I: マイヤー=エプラーの観察連鎖モデル

P: 周辺的な知覚器官 / Z: 中心的器官

これに対して，→ 発送者が有機体，→ 信号が発送者の意図からは独立した，従って取り決められた → コードなしに発信される生物的，心理的な → 指標(→ 徴候)の場合は，図 II のような診断学的な伝達連鎖が生じる．

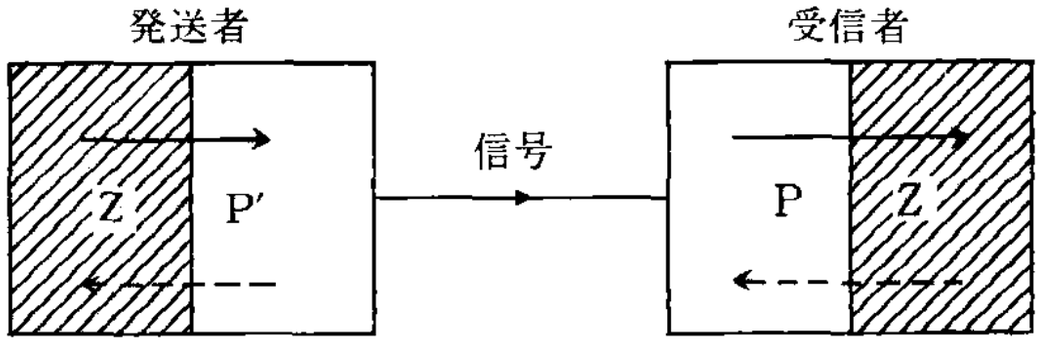


図 II: マイヤー=エプラーの診断学的伝達連鎖モデル

Z: 中心的器官 / P′: 周辺的な活動器官 / P: 周辺的な受容器官

イデオロギー Ideologie / ideology / idéologie フランスの哲学者トラシー(1754–1836)により，観念の形成過程を研究する科学の

意味で用いられ，マルクス / エンゲルス以後，社会的に制約された人間の「意識形態」または「観念形態」という意味で用いられている (Marx / Engels 1962). 従って，政治的見解や法律的観念，あるいは道徳，宗教，哲学そして現実のあらゆる科学的認識もすべてイデオロギーの諸形態といえる.

記号学的にみるとイデオロギーは，既存の → コードよりも，むしろ記号の送り手の世界観を，受け手が解釈する過程にかかわってくる(→ 送り手と受け手). 例えば，「彼はマルクスに従う」というとき，事実についての記述と同時に，多くの場合，マルクスに従うのは良いのか悪いのかという → 共示義が含まれ，その解釈には複雑な推論が必要となる. このように，イデオロギーは，コードの記号論の枠外にありながら，多くの → 仮説的推論の過程で触媒的に働き，既存のコードをこえた新しい → コード体系化における意味を規定する機能をもつ. → 記号学はコードと記号生産の理論から，さらに記号の → 生産者である個人の深層的な願望を説明できる理論にまで発展する傾向にある. こうした流れのなかでイデオロギーは，→ 修辞学や → 文体論を含む → テクスト記号論において，ますます重要な研究対象となってきている.

遺伝子コード genetischer Kode / genetic code 分子遺伝学が → 情報理論の → コードを生物学的なプロセスに応用した概念で，生細胞内におけるたんぱく質の生合成法則の体系を指す. → ヤコブソンが指摘しているように，遺伝子コードと → 言語コードには際立った類似性が認められる (Jakobson 1973). すなわち遺伝子コードは 4 つの異った「文字」，つまり核たんぱく質からなる一種の「アルファベット」と定義される. その → 語彙目録は，あらゆる可能な文字の結合として，64 語の語彙項目エントリーからなり，そのうちの 61 個の結合が意味をもつこととなる. シービオクは，遺伝情報系がすべての記号ネットワークのなかで最も基本的であり，人間を含む動物のあらゆる信号体系の原型であると主張し，遺伝子コードの研究が → 記号学の 1 分野として今後さらに厳密化されるべきことを強調した (Sebeok 1979; → 体内記号論).

イド Ido / ido / ido 1907 年に，フランスの哲学者クーテュラー

(1868–1914) らによって，→エスペラントの改良として考案された国際補助言語．エスペラントにおける形容詞の複数形の廃止や語順の簡略化を主な目的とし，語彙の面でも若干の修正が試みられている(→人工言語).

意図性 Intentionalität / intentionality 発信者が伝達過程で意図する→実用論的な記号の側面．→テクスト言語学では，テクスト生産者が→結束構造と→結束性をそなえた→テクストを生産しようとする意図を指す．→テクスト性を決定する基準のひとつとされている (Beaugrande / Dressler 1981).

意味 Bedeutung / meaning 一般に表現とその内容との関係を意味とし(→表現と内容)，その関係のとらえ方により各種の規定が可能となる(慣用的・臨時的・表示的・認知的・共示的・情動的意味など)．1記号単位の意味を体系内の隣接項との対立関係によって定めようとする立場(→ソシュール)と，記号使用の場における記号使用者と記号受容者との相互作用によって生みだされるものが意味であるとする立場とがある(→実用論)．→パースは記号を，何ものかのためにあり，かつ誰かによって→解釈されるものとしたが，そのとき，解釈内容が意味となる．これらは→3次性の基本原理によって名辞的意味，命題的意味，論証的意味に分類される．ベンゼは，この立場を発展させてそれぞれに「完結した意味」(論理的評価可能)，「完結していない意味」(論理的評価不可能：暗喩的表現など)，「完全な意味」(それ以上展開不可能で，論理的に評価可能：公理体系など)の区分を加えている (Bense / Walther 1973).

このように，記号と記号使用をめぐる立場によって，意味についても多くの捉え方があり得る(→意味論，→表示).

意味化 Semantisierung / semanticization ロトマンは文学的記号は→類像であるとすることで，現代の文学類像論を代表する．ロトマンによると，芸術における記号は，恣意的な慣習に基づくものではなく，類像的・写像的性格をもっている．類像的記号は→表現と内容の内在的結合の原理によって構成され，記号はその内容の枠組みとなり，この枠組みでは，例えば，文学テクストにおける自然言語の統語的要素の意味化がおこる．このように，表現面の要素がその類像性によって意味をもつようになること

で，文学テクストのなかに2次的体系が生じる．これに対し，1次的体系は文学テクストの指示的レベルであり，2次的体系はその共示的レベルである(→指示義，→共示義)．つまり，文学テクストはそこに描かれた世界のほかに，それ自体が再び類像的記号となって，もうひとつの意味をもつに至るがこれを意味化という(Lotmann 1972).

意味作用 Signifikation / signification →コミュニケーションの行為は，送り手の意図を前提とする．この前提のもとで記号が提出されるとき，それは→信号となる．しかし，送り手の意図が欠けていると，受け手に到達する→情報は信号とはならず，→指標にとどまる(→送り手と受け手)．この場合の伝達過程はコミュニケーションではなく，単なる意味作用にすぎないとされる(Prieto 1975).

意味作用の過程も，プリエートにとっては→記号学の対象で，→コミュニケーションの記号論と，意味作用記号論の2分野に分けられる．→モリスにおいては，意味作用とは，→記号負荷体が指示内容を指示する作用を意味する．

意味作用の基本構造 elementare Bedeutungsstruktur / elementary structure of signification / structure élémentaire de la signification →差異を知覚することから→構造が成立すると考えるとき，→言語における基本的意味は孤立した要素それぞれの中にではなく，それらの相関性によって成立する．「息子」と「娘」における意味の区別は，〈男性〉・〈女性〉という意味上の対立に基づくが，その背景には，〈性〉という意味上の共通項がある．→グレマスはこのような位置関係を意味作用の基本構造と名づけた(Greimas 1971; →意味の軸).

意味作用の様態 Signifikationsmodi / modes of signifying アルベルトゥス・マグヌスなど中世の意味様式理論の代表者たちは，思弁的文法において物(ラ res)と概念(ラ conceptio)と音声(ラ vox)の記号関係を研究した．モディストたちにとって語は物(対象)を表す記号であって，心的意味内容を表すものではなかった．つまり理性が対象の存在様式を知ることによって語に意味内容を与えて，初めて単なる音声が言語記号になると考えた．→モリスは意味作用の様態を位置的・指示的・評価的・命令的・形式的様態

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com